

第4章 イギリスのキャリア教育の具体的事例

第4章ではイギリスのキャリア教育における具体的な実践例として、ロンドン市ワンズワース区のキャリア教育について報告する。

第3章で整理したように、イギリスのキャリア教育、Work-related learningは学校を中心にして行われ、LEA（地方教育当局）、コネクションズ、EBLOがそれを支援し、政府はこれらの支援団体に対して学習・スキル協議会などを通じて補助的な資金を提供、実施されている。

こうした状況を踏まえ、現地調査の主な対象をこの3主体として実施した。また今回、特にご協力をいただいたロンドン市ワンズワース区を事例として取り上げ、イギリスのキャリア教育における具体的な実践例について報告する。

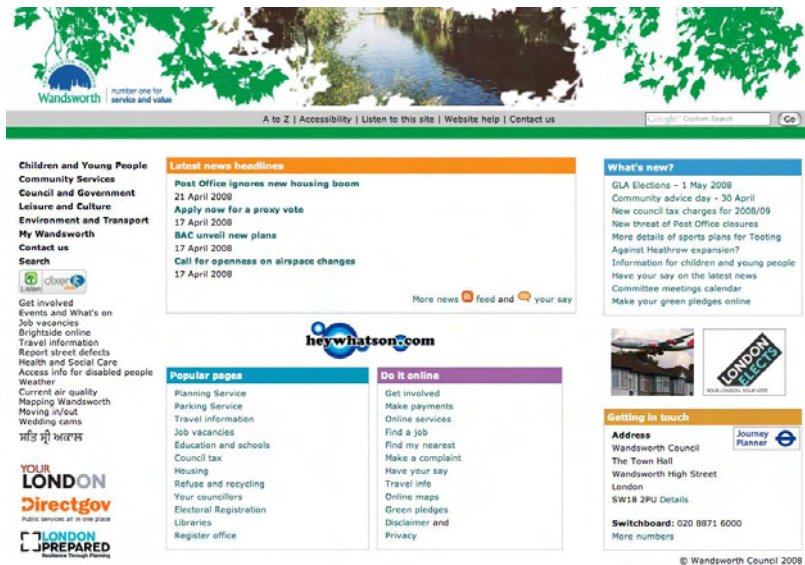
4-1 ワンズワース区とは

ワンズワース区は、ロンドン市内にある行政区で、独自の議会を有している。ロンドン市内のテムズ河の南側に位置し、保守党が強い地域である。以前は白人労働者の居住区で、1960年代には高層の公営住宅が多く建てられたが、徐々にアジア系移民が住みついていった。ロンドン中心への交通の便がよいため、その後徐々に白人ミドルクラスが北側に流入し始めている。2005年の段階では人口は約28万人で、うち白人は67%を占めている。全般的な貧困度はロンドンでは平均的である。

図表4-1 ロンドンおよびワンズワース区



図表 4-2 ワンズワース区のホームページ



(出典) <http://www.wandsworth.gov.uk/Home/default.htm>

4-1-1 ワンズワース区当局が関与するキャリア教育

ワンズワース区ではすでに行政制度改革が行われ、地方教育当局 (Local Education Authority: LEA) の事務局であった教育局は、地方当局 (Local Authority: LA) のもとで、現在、チャイルドケア、ユースサービス、学校教育を統合したものになっている。コネクションズとの連絡/連携として統合ユースサービス課にコネクションズマネージャー、ヴァージニア・ウォール (Virginia Wall) 氏がいる。



ワンズワース区統合ユースサービス課コネクションズマネージャー ヴァージニア・ウォール氏 (左)

<インタビュー：ワンズワース区統合ユースサービス課ヴァージニア・ウォール氏>

ワンズワース区が現在地方当局（Local Authority: LA）として行っているキャリア教育とは、「すべての子どもが大事（Every Child Matters）」政策を受けて、司法、社会保障、教育、保健衛生関係者が協力して困難を抱えている子どもを具体的に支援することが目的であるとされている。

ワンズワース区の場合、区としてインテンシブ・パーソナルアドバイザーのチーム（20名）を結成し、また地区コネクションズのユニバーサル・パーソナルアドバイザーのチーム（22名）がキャリア教育を主に担うという分業体制を一応確立している。ヴァージニアはインテンシブ・チームのヘッドであり、地区コネクションズのヘッドであるミッシェル・ジャクソン（後出）と連携してワンズワース区のキャリア教育を担当している。

パーソナルアドバイザー（以下、PA）たちは基本的に子どものカウンセリング（Information, Advice and Guidance: IAG）を行っているが、1人が1つの学校に張り付いているわけではない。だいたい2～3校ほど受け持っており、週2日程度学校に行く。

ワンズワース区の到達目標としては、

①若者の失業率を減少させること。5年前（10%）と比べて現在、失業率は半分になっている（5%：300名）。

②資格保有者の増大（全国的目標）を実現すること。国はこのために教育維持補助金（Education Maintenance Grant）を交付。以前は対象年齢が16歳から18歳であったのが、現在は19歳まで延長された。

基本的には「展望をもとう」というフレーズのもとでカレッジへの進学を奨励している。また新たなディプロマ（第3章参照）の導入が9月から予定されている。Society, Health and Development Diploma コースを現在パイロット事業として実施している。

※このディプロマでは、ビジネス、業界団体等で作るコンソーシアムが参加することが奨励されている。

図表 4-3 ワンズワース区 PA リスト

FIND YOUR PERSONAL ADVISER (PA) **December 2006**
 The list below shows where PAs work in Wandsworth. Most PAs work in several different agencies as well as the Connexions Centres (Connexions Battersea; Tooting Base; Roehampton Base). PAs in Wandsworth are employed by either Prospects or Wandsworth Council. All PAs should provide the same basic advice and support service but many have specialisms too eg. in careers guidance, homelessness, youth work.

Schools/Colleges	PA (for careers guidance)	Contact	PA (for intensive support)	Contact
ADT	Beverley Lawrence	020 7326 8700	Beverley Lawrence	020 7326 8700
Battersea Technology College	Nana Arslanian Scott	020 7326 8700	Joy Josiah	07787 778854
Burntwood	Sylvia Kankasa	020 7326 8700	Heidi Thomas	07903 653755
Centre Academy		Catherine O'Mahony		020 7326 8700
Chestnut Grove	TBC	020 7326 8700	Simon Payne	07768 835003
Elliott	Lisa Evans	020 7326 8700	Colin Williams	020 8780 5253 0776996 5176
Ernest Bevin	Dee Meertins	020 7326 8700	Aaron Darby	020 8682 9457 07768 834738
Francis Barber		Rebecca Cashmore		020 7326 8700
Garratt Park		Mark Dunsdon/Alicia Cope		020 7326 8700
Graveney	Ann Lawrence	020 7326 8700	Vicky Perryman	020 7326 8700
John Paul II	Isobel Sheldon	020 7326 8700	Airena Neil	07881 857073 07768 615163
Linden Lodge		Alicia Cope/Terry Miles		020 7326 8700
Nightingale		Mark Dunsdon		020 7326 8700
Oak Lodge		Anne-Marie Millington		020 7326 8700
Paddock		Anne-Marie Millington		020 7326 8700
Salesian	Isobel Sheldon	020 7326 8700	Beverley Lawrence	020 7326 8700
St Francis Xavier		Ann Lawrence and Catherine O'Mahony		020 7326 8700
St Cecilia's		Paula Dempsey and Nana Arslanian Scott		0207 326 8700
Southfields	Rudi Salmon	020 7326 8700	Theresa Boast Anne-Marie Millington (for VAP/HIU students)	07903 652501 020 7326 8700
South Thames College	Alex Mann Michelle Jackson	020 7326 8700	Sylvia Kankasa (for College Link) Anne-Marie Millington (special needs) Paul Bailey	020 7326 8700 020 7326 8700 0208 780 5253

図表 4-4 ワンズワース区キャリア教育サイト

The screenshot shows the 'base connexions' website. On the left is a vertical navigation menu with links: HOME, ABOUT BASE, MAGAZINE, HEALTH, RELATIONSHIPS, MONEY, LEARNING, JOBS, NI Number, Self-Employment, Unemployment, Work Experience, Search jobs, MY AREA, and CONTACT. Below this is a Google Custom Search bar and an Email Login link. The main content area is titled 'JOBS Work Experience' and includes a cartoon character and text about finding jobs. To the right, under 'OTHER LINKS', are logos for LOIS, CV CENTRAL, jobs4u, and Job GENERATOR. At the bottom, there are several links to external resources: Connexions Direct Work Experience, Need2know Work Experience, WorkExperience.org, and CSV - Volunteer Bureau.

(出典) <http://www.wandsworth.gov.uk/Home/Base/Jobs/Work+Experience.htm>

4-1-2 コネクションズが関与するキャリア教育

ワンズワース区のコネクションズは、区からの委託により Prospects（以下、プロスペクツ）という企業が運営している（図表4-5）。そのためパートナーと呼ばれている。今回インタビューを行ったミッシェル・ジャクソン（Michelle Jackson）氏は、先のウォール氏とともにワンズワース区のコネクションズ関係の仕事を協力して行っている。彼女自身はプロスペクツの被雇用者である。

プロスペクツは、職業訓練を提供したり、コンサルタントや管理の代行なども提供したりしている。また、学習・スキル協議会、ロンドンのシティ・アンド・ギルド、ILM マネジメント、NQF、OCR など職業準備教育資格の認定も行っている。ミッシェルの話によると以前は LEA に所属していた職員が独立して会社を設立、拡大していきプロスペクツとなったという。インターネットで検索するといくつかのプロスペクツ・トレーニング（サービス）という会社があるが、彼女が所属するプロスペクツは現在ケントに本部があるものだ。現在ワンズワース区には、コネクションズ・センターが3ヶ所（バタシー、トゥーティン、ローハンプトン）ある。ミッシェル・ジャクソン氏はバタシーに所属している。彼女自身はキャリア教育の専門家である。

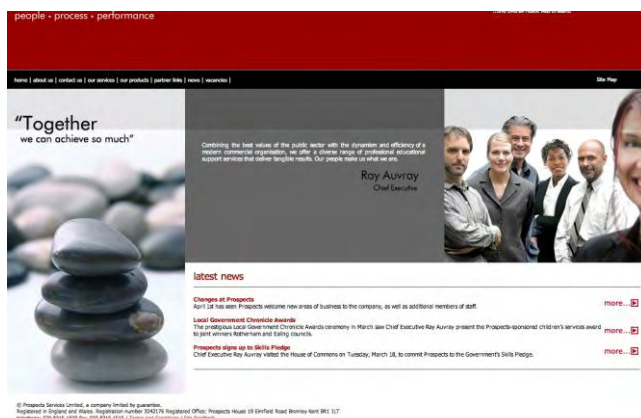


ワンズワース地区コネクションズセンター ミッシェル・ジャクソン氏

コネクションズ・バタシー・センター外観

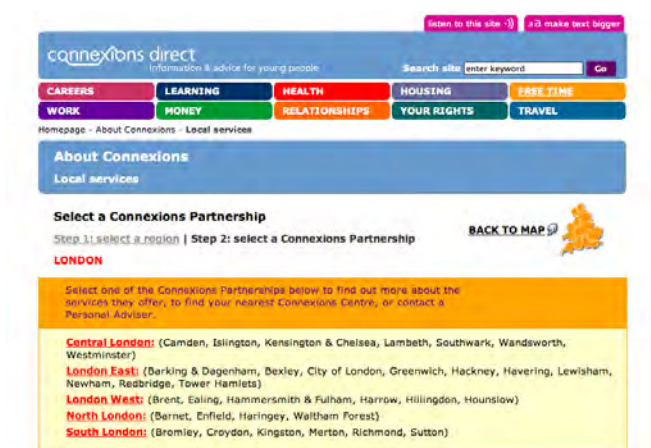


図表4-5 プロスペクツのホームページ



(出典) <http://www.prospects.co.uk/home.asp>

図表4-6 コネクションズのホームページ（各地域のコネクションズの案内）



(出典) http://www.connexions-direct.com/index.cfm?pid=72®ionID=7&serviceID=0#office_69

<インタビュー：ワンズワース区統合コネクションズセンター ミッシェル・ジャクソン氏>

ワンズワース区コネクションズ・パートナーであるプロスペクツに所属するPAは、ワンズワース区の職員と異なり、プロフェッショナルとしてキャリア教育を担当している。現在PAは22名おり、年間約100万ポンドの予算を当該地域の学習・スキル協議会から交付され、主にカウンセリングを通じてキャリア教育を行っている。

目標としては若者の職業意識を高めること。実際に行っていることは、コモン・コア・ワーク（共通の核となる作業）を提供すること。

コネクションズのPAは週3日が学校、1日はセンターで勤務している。だいたい複数の学校を担当している。学校にはコーディネーター（あるいは担当教師）がいるので、彼らと協力して行う。

基本的には以下の5点のようなことを行っている。

- ①生徒へのインタビュー
- ②Year10 での work-related experience 実施
- ③センター企画のキャリア教育イベント
- ④求人情報の掲示
- ⑤雇用先への訪問およびチェック

PAの仕事としては、生徒個人に対するアドバイスプラン（Personal Advice Development Plan）を作成し、それをもとにアドバイスを行っている。

現在、ワンズワース区では、18歳までに level 9, Core MQ Level 3 まで到達を目標にしているのですが、それを達成しないと次の契約が取れなくなるという恐れがある。

地方学習・スキル協議会との関係としては、いわゆる Link manager と呼ばれる部分を担当。

従来、補助金は学習・スキル協議会から出されていたが、2008年9月から補助金は直接ワンズワース区に支払われることになり、幸いにも新規3年間については、区との契約を入札制度で落札している。

図表 4-7 バタシーのコネクションズセンター内部にて



4-1-3 パーソナルアドバイザー（PA）

ワンズワース区担当者の計らいで、直接PAであるテレサ・ボースト（Theresa Boast）氏にインタビューが出来た。彼女はワンズワース区がコネクションズに関するパイロット・スキームに応募したときのメンバーであったため、この間の情報を詳しく教えてもらった。さらに彼女は元々学校の職員（広報担当官）であったところから、学校に一番密着した形で、これらの活動を行ってきた。そのような経緯で、学校側のキャリア教育への取り組みに関する情報も入手することが出来た。



ワンズワース区パーソナルアドバイザー テレサ・ボースト氏

<インタビュー：ワンズワース区パーソナルアドバイザー テレサ・ボースト氏>

テレサ・ボースト氏は、サウスフィールズ・コミュニティカレッジ（Southfields Community College：中等教育学校）に足場をおいているコネクションズ所属のPAであり、彼女の事例は例外的といわれている。氏は、もともと同校の校長に請われて学校の広報担当官になった。もとは専業主婦であったが、夫の仕事関係が映像に関わるところから、広報担当官にという話になったのだそうだ。

政府がコネクションズの設立以前にパイロット・スキーム（試行）として事業を行う地域を公募したところ、ワンズワース区が手をあげた。テレサはそのワンズワース区のコネクションズで働く創設メンバー4名のうちのひとりとなった。実はこれも校長に勧められてのことであった。その後ワンズワース区のインテンシブ・チーム（前出のヴァージニアのチーム）に参加し、さらにミッシェル・ジャクソン氏のところでコネクションズの職員となる。このことは自動的にプロスペクツの職員となることを意味している。

【補注】

テレサ・ボースト氏のように、類似の職を移動することはイギリスでは珍しくない。それぞれ給与や待遇も違うので、少しずつ会社を変えることで上昇していくことは一般的にみられる。さらに、1980年代以降、官民の違いや、異動の障害が取り払われたことによっても一層流動化が高まっている。公共サービスを民間企業が提供するという政策の結果でもある。働く者からすれば、たとえば、公務員だったのが、民営化されたために職場がなくなったり、そのまま民間企業または準公的機関となったりした場合の身分保障等も法律によってきちんと守られている。

【労働条件】

現在テレサ・ボースト氏は、週4日は学校、1日はセンター勤務という形になっているので、例外的なPAであることは明らかである。実際には土曜日にもうひとつのセンターに行ってくれといわれているので、かなり忙しい。

【学校で行う業務】

サウスフィールズ・コミュニティカレッジでは通常はPSHE (Personal, Social and Health Education) 担当教師がキャリア教育の関係調整を行い、2名の教師がコーディネーター（兼務）としてサポートしている。正式にはパネル（委員会のようなもの）が存在している。このパネルというのは、キャリア教育を運営するための組織で、コーディネーター、特別支援教育コーディネーター(SENCO)、メンター、教員評価担当者、英語を母語としていない生徒のための英語担当者などによって構成されている。テレサ・ボースト氏もこのパネルのメンバーであり、全体としてサウスフィールズ校のキャリア教育を担っているといってもよいだろう。

このほかにも学校では、生徒との面接（予約制）、オフィスアワー（朝8時から午後4時まで）をこなしている。

【補足】

2007年度の教育水準局（Ofsted）の学校査察報告書によれば、サウスフィールズ・コミュニティカレッジにおけるキャリア教育の状況として、「生徒たちは現場でのスキルやその他のスキルを自分たちの将来の経済的成功をもたらすように育成している」という項目で「優」の評価が下されている。

(http://www.ofsted.gov.uk/reports/pdf/?inspectionNumber=285963&providerCategoryID=8192&fileName=Yschoo1Y101Ys5_101063_20070208.pdf)

4-1-4 民間企業によるコーディネーター

学校の正規のカリキュラムとして Work-related learning が組み込まれている。現在は、この Work-related learning のアレンジや提供する企業探しなどが独立してビジネスとなっている。前章で記した EBL0 と呼ばれる組織は、その役割を担う民間の組織だ。学校は現在全ての予算を独自に使えることになっているのでこのような組織に直接発注したり、行政区レベルでこのような組織を公募・採択し、学校に対する Work-related learning 関連の活動を提供したりしている。

今回ヒアリングを行ったのは、ワンズワース区の BEST (Business & Education Succeeding Together) を組織するエリー・ボーラー (Ellie Boorer) 氏と、ウェストミンスター区の LCEBA (London Central Education Business Alliance) を組織するケビン・サイモンズ (Kevin Simmonds) 氏である。2名同時のインタビューとなった。

2人は教員資格等を有していないものの、ビジネス界や一般社会の考え方や慣行を学校に持ち込むような企画を通して、教員のコミュニケーションスキルを育成するプロジェクトも行っている。以下では、2人の組織が提供するサービスをインタビュー内容、各組織のホームページ、収集資料などから整理し、その後、インタビューの内容全体をとりまとめた。



ロンドン・セントラル・エデュケーション・ビジネス・アライアンス ケビン・サイモンズ氏 (左)
ビジネス・エデュケーション・サクシーディング・トゥギャザー エリー・ボーラー氏 (中央)

<ロンドン・セントラル・エデュケーション・ビジネス・アライアンス (LCEBA) >

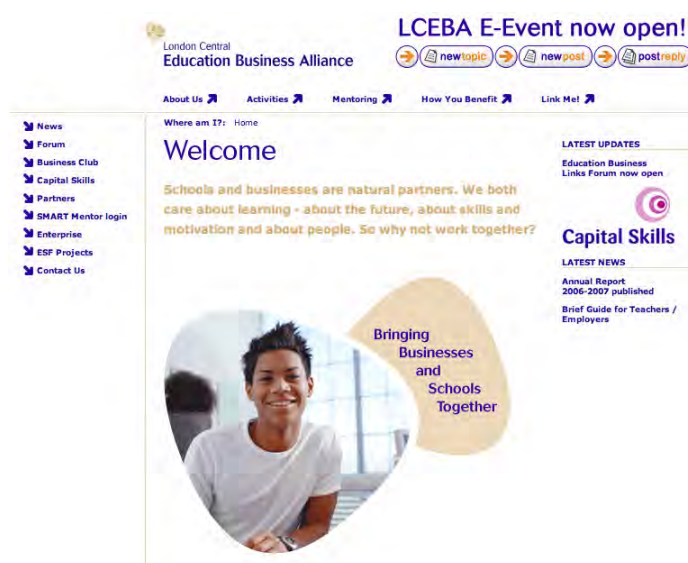
ロンドン・セントラル・エデュケーション・ビジネス・アライアンス (London Central Education Business Alliance : LCEBA) は14の組織が参加するコンソーシアムである。学習・スキル協議会の基金によって支えられ、ロンドンの中心の地域で学校とビジネス界の連携を促進する任務を負う。学習・スキル協議会からの補助金を獲得して、教育と管理経営に関するサービスを提供し始めたのが最初だという。

現在の活動基盤は、カムデン、イズリントン、ケンジントン&チェルシー、ランベス、サザーク、ワンズワース、ウェストミンスターで、各区にそれぞれ担当者あるいは独自の組織があり、中央にオフィスがひとつある。

サービスの内容は、ホームページにも掲載しているが、キャリア教育の企画・組織、教職員研修プログラムなどの開発と提供、メンタリング、職場体験学習の企画・組織、ワーク・シャドウイング、などとなっている。

この組織の主な収入源としては、学習・スキル協議会、Capital Skills、コネクションズが挙がり、このほかのものと合わせて 732,912 ポンドの収入がある。また、支出額は 731,937 ポンドとのことだ（LCBEA の「Annual Review 2006-07」より）。

図表 4-8 LCBEA のホームページ



(出典) <http://www.businesses-schools-together.com/>

<インタビュー：LCBEA ケビン・サイモンズ氏>

彼自身は経営の学位をもち、以前はクリーニング会社を所有・経営、その後ボランティアに従事した後、この仕事を始めた。

6年前に 14 の企業を組織し、ロンドン・セントラル・エデュケーション・ビジネス・アライアンス（London Central Education Business Alliance：LCBEA）というコンソーシアムを創設。現在ケビン・サイモンズ氏はウェストミンスター区と契約をしており、給料も支払われている。

「企業が我々のサービスを購入するような文化が生長してくることが望ましい。こういった文化を我々はこれまでもってこなかった」と話してくれた。

現在の主要な提供サービスの内容は、教師の研修ということで、教師の派遣（placement）プロジェクトを行っている。「これは教師に夏休み等に学校以外の場で実際に働いてもらって、民間企業の考えや文化を理解して、学校文化のもつ狭さ等を打破してもらうためのものだ。これが私自身が実施しているプロジェクトだ」。

<ビジネス&エデュケーション・サクシーディング・トゥギャザー (BEST) >

BEST（以下、ベスト）はワンズワース区の「教育－ビジネスパートナーシップ」である。ベストの目標は、企業や学校と協働することによって若者の意欲や学業成績を向上させることだという。ベストは学校、企業、地域のグループの仲介役として、プロジェクト開発・運営の役割を担う組織である。

職場体験のアレンジメント、インタビュースキル、起業活動、E-メンタリング、教員の職能開発などのプログラムを提供している。

【ホームページで挙げられているサービス内容】

①生徒に対するメンタリング

BEST が提供するメンタリングは、最長2時間、1年に10回、学校または労働現場で行われる。

②E-メンタリング

Eメールでのやりとりでメンタリングを行う。対象は16歳から18歳である。

③労働に関する学校の活動

キャリアガイダンス、仕事に関するプロジェクト、模擬インタビューなど

④職場見学

⑤学校と外の世界を結ぶこと

雇用主による学校訪問講座の開講、運動場などの学校施設の改修プロジェクト等の推進。

読書週間企画、クリスマス・パーティなどの企画

現在直面している問題は、学校に予算がさらに増額されると校長の自主裁量権が増え、どこのサービスを購入するか、校長の判断にかかってくる。今後はディプロマコースの開発に力を注いで、そこからビジネスチャンスをつなげていかなければならないだろう。

図表 4-9 ベストのホームページ

BEST:
Business & Education Succeeding Together



(出典) <http://www.bestbp.org.uk/index.php>

<インタビュー：BEST エリー・ボーラー氏>

BEST(Business & Education Succeeding Together)という法人企業を自分で設立し、ワンズワース区のキャリア教育を実際に企画し、行っている。このベストもケビンの所属する組織(LCEBA)に加盟しており、ワンズワース区担当の1人である。ワンズワース区に採用されているが、ワンズワース区から給料が出ている訳ではない。長い歴史をもつ小学校の3階に机と電話、部屋を数室無料で提供されているだけである。この学校の建物それ自体はワンズワース区のもので、いくつかのエージェンシーに使わせているものだ。

ワンズワース区には国から約10万ポンドの補助金がキャリア教育のために提供されている。ベストのような企業はこのような補助金を入札によって獲得しなければならないし、結果を出さなければならないのである。

エリー・ボーラー自身はそれまでユースワーカーを経験し、ランベスで技術・職業準備教育イニシアチブ(TVEI)のプロジェクトを12年間やってきて、地方教育当局や学習・スキル協議会との関係を作りあげていった。この関係でベストを設立し、今はキャリア教育サービスのプロバイダーとなっている。実際にはプロバイダーというより仲介者という役目である。

現在ベストでは、たとえば、若者起業プロジェクト(Young Enterprise Project)を行っている。これは10ヶ月28,000ポンドのプロジェクトである。とすると、この中から自分の手数料を取り、スタッフの人件費を支出し、サービスを提供することになる。時には補助金が足りなくて厳しい状況に追い込まれる。とくに学校予算が執行されるのが9月からということもある。「結局我々がやっているのはビジネスだからそこをうまく切り抜けなければならない」とやや自嘲気味に話してくれた。

コネクションズのところでも話に出たが、今度政府からの補助金の出方が変わる。政府は学校に対して直接支払う補助金を増額したいと考えている。そのため、ケビン・ボースト氏やエリー・ボーラー氏のように、自分たちの会社を維持するためには、どこからかお金を探してこななければならない。イギリスには企業が献金すると税金が免除されるというようなアメリカのような制度がないので、なかなか企業がお金を出さない。ワンズワース区は中小企業が多いのもまた問題である。大企業であれば社会的貢献もまた企業イメージをあげるため、結構資金援助をしてくれるが、それが見込めないからである。

ワンズワース区が今後はキャリア教育を提供する責任を負うので、きちんとサービスを購入してもらえよう、良い企画を提供していかなくてはならない。つまりワンズワース区が顧客なのだ。

エリーの会社には、ケビンと異なり、スタッフが5名いる。これはさまざまなプロジェクトをやるためにそれぞれスタッフが要るためである。またプロジェクトによっては、他のプロバイダーからサービスを購入することもある。こういったことを限られた補助金の範囲でやりくりするのが、コーディネーターである自分の仕事であると、エリー・ボーラー氏は述べている。

【他の関係者・組織との関係】

昨年は、コネクションズのミッシェル・ジャクソン氏が教師の研修として、私たちのサービスを購入した。私たちは教師をビジネスの世界に送り込み、彼らはビジネス界の文化や、何がどのように機能しているか、そういったことを理解してもらうことをやった。教師はビジネス界とコミュニケーションを行う機会が少ない。キャリア教育を効果的にすすめる上で、教師の企業における経験は、非常に役立つだろう。

コネクションズとの関係はそれほど密ではないが、会議等と一緒にすることが多々あり、互いに顔や名前は知っている。

【キャリア教育を供給する際に気をつけていること】

生徒に対しては、やはり将来就きたい職業が何で、それに就くためにはどのようなことが必要かということと同時に、実際にどのような仕事をしているのかということを経験させることを企画している。そして一度その職場に実際に行って、働いてみて、その後も連絡を取るようには勧めている。

【仕事の受注について】

どのように仕事をとってくるかといえば、ほとんどロコミの世界で、学校が選んで連絡を取ってくる。多くの類似の組織があるため、生き残っていくのはかなり大変である。どのようにビジネスをやっていくかといえば、さまざまな補助金を獲得して、それを運用していくわけだが、請け負っても出来ない部分はまた他の組織に外注するような形になる。そういうこともこのビジネスの特徴である。コーディネーターというのは、そういうこともやるのだ。

4-2 イギリスのキャリア教育におけるまとめ

以上、イギリスにおけるキャリア教育の進展、コネクションズおよびコーディネーターの実態等について述べてきたが、ここで簡単にまとめておくことにする。

まず、このキャリア教育の導入に関していえば、長年のイギリス教育の問題であった職業準備教育と、進学のための学術的な教育の分離を、いかにバランスの取れた中等教育カリキュラムにしていくかという問題に対する、ひとつの回答となっているということである。従来からの学校教育関連資格の枠組みの整理と、新たなディプロマの導入が重要な到達点である。さらに、義務教育後教育（ポストシックスティーン）だけで対応してきた就労に向けた教育訓練制度を、義務教育の段階からきちんとカリキュラムの中に位置づけ、さらには、継続教育・高等教育における資格制度の整理まで行うことによって、全体的な教育・資格水準の向上を実現させる体制が整ったということもできる。ディプロマだけではなく、ファンデーション・ディグリーといった新たな学位の導入によって、職場に基礎をおく訓練および就労経験がきちんとした学業的資格に結びつくようになった上、高等教育への橋渡しとしても機能することが期待されている。こういった点では、日本におけるキャリア教育や職場体験といった内容や水準よりも、はるかに先を進もうとするイギリスの試みは、十分モデルとなるものといえよう。

さらに重要なことは、こういった新しい試みを従来の学校や企業にさせるのではなく、それ専用の人材を活用するという戦略である。つまり、ここでいうコネクションズやコーディネーターの創出である。学校教育にビジネス界との協力関係を持ち込む場合には、直接連携させるよりも、コーディネーターを入れることにより、一つには新しいビジネスチャンス・市場を創出し、またもう一つには、ビジネス界の要求を直截的に学校に反映させないようなクッションとなる、という役割を果たしていることがわかる。もちろんコーディネーターがそれによって十分生活できるように、補助金が市民社会に多額に交付されることが重要な条件となっていることを忘れてはならない。

他方、これをビジネスチャンスとみて、参入してくる個人・企業は、やはり何らかの学校に關係のあるバックグラウンドをもっている人であったり、莫大な利益をあげるほどにはなっていないにしても、金儲けよりも社会に貢献したいと考えている個人であったりしているところが重要である。今回お目にかかったコーディネーターは基本的に自営業である。1人の生活ができる程度の金儲けである。しかし、やりがいがあるそこには明確にあった。

こういったことは、人材の流動性が高いイギリス社会だからこそ可能であるとして、日本では不可

能であると結論を下すことはないであろう。ただし、一番の問題は、先にも触れたが、まず法人格が比較的簡単に認められて、補助金が多種多様な機関から交付されて、それが自由市場的な入札制度によって守られているという条件が作られるべきであるということであろう。そしてそれは、やはりコーディネーターとしてやっていこうと思う人材が登場し、現にそれで食べていける程度の収入とならなければならない。さらに、イギリスの場合の社会保険制度を含むセーフティネットの存在を指摘しておかねばならない。

(大田直子)